

(巻末資料 参考)

死亡診断書 (死体検案書)

この死亡診断書(死体検案書)は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。楷書で、できるだけ詳しく書いてください。

記入の注意

氏名	1男 2女	生年月日	明治 昭和 年 月 日 大正 平成 令和 (生まれてから30日以内に死亡したときは生まれた時刻も書いてください)	午前・午後 時 分
死亡したとき	令和 年 月 日	午前・午後 時 分		
死亡したところ及びその種別	死亡したところの種別	1病院 2診療所 3介護医療院・介護老人保健施設 4助産所 5老人ホーム 6自宅 7その他		
	死亡したところ	番 地 番 号		
	(死亡したところの種別1~5) 施設 の 名 称	()		
死亡の原因	I ◆I欄、II欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆I欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆I欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください	(ア)直接死因		発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてくださいただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください(例:1年3ヵ月、5時間20分)
		(イ)(ア)の原因		
		(ウ)(イ)の原因		
		(エ)(ウ)の原因		
	II ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	直接には死因に関係しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等		
手術	1無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	令和 平成 昭和 年 月 日
解剖	1無 2有	主要所見		
死因の種類	1 病死及び自然死			
	外因死	不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焰による傷害 } その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 }		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	令和・平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県
	傷害が発生したところの種別	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()		市 区 町 村
	◆伝聞又は推定情報の場合でも書いてください	手段及び状況		
生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数	
	グラム	1単胎 2多胎(子中第 子)	満 週	
追加事項	妊娠・分娩時における母体の病態又は異状	母の生年月日	前回までの妊娠の結果	
	1無 2有 ()	昭和 平成 令和 年 月 日	出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)	
その他特に付言すべきことから				
上記のとおり診断(検案)する 診断(検案)年月日 令和 年 月 日 本診断書(検案書)発行年月日 令和 年 月 日				
〔 病院、診療所、介護医療院若しくは介護老人保健施設等の名称及び所在地又は医師の住所 〕				
(氏名) 医師		印		

生年月日不詳の場合は、推定年齢をカッコを付して書いてください。

夜の12時は「午前0時」、昼の12時は「午後0時」と書いてください。

「5老人ホーム」は、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム及び有料老人ホームをいいます。

死亡したところの種別で「3介護医療院・介護老人保健施設」を選択した場合は、施設の名称に続けて、介護医療院、介護老人保健施設の別をカッコ内に書いてください。

傷病名等は、日本語で書いてください。
I欄では、各傷病について発病の型(例:急性)、病因(例:病原体名)、部位(例:胃噴門部がん)、性状(例:病理組織型)等もできるだけ書いてください。

妊娠中の死亡の場合は「妊娠満何週」、また、分娩中の死亡の場合は「妊娠満何週の分娩中」と書いてください。産後42日未満の死亡の場合は「妊娠満何週産後満何日」と書いてください。

I欄及びII欄に關係した手術について、術式又はその診断名と関連のある所見等を書いてください。紹介状や伝聞等による情報についてもカッコを付して書いてください。

「2交通事故」は、事故発生からの期間にかかわらず、その事故による死亡が該当します。

「5煙、火災及び火焰による傷害」は、火災による一酸化炭素中毒、窒息等も含まれます。

「1住居」とは、住宅、庭等をいい、老人ホーム等の居住施設は含まれません。

傷害がどういふ状況で起こったかを具体的に書いてください。

妊娠週数は、最終月経、基礎体温、超音波計測等により推定し、できるだけ正確に書いてください。

母子健康手帳等を参考に書いてください。

記入の注意

◎ こちら側は医師が記入する欄です。

死亡診断書 (死体検案書)

この死亡診断書(死体検案書)は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。かい書で、できるだけ詳しく書いてください。

氏名	1 男 2 女	生年月日	明治 昭和 大正 平成 令和 生まれてから30日以内に 死亡したときは生まれた 時刻も書いてください。	年 月 日	午前・午後 時 分		
	死亡したとき		平成・令和 年 月 日	午前・午後 時 分			
(12) (13)	死亡したところ及びその種別	死亡したところの種別	1 病院 2 診療所 3 介護医療院・介護老人保健施設 4 助産所 5 老人ホーム 6 自宅 7 その他				
		死亡したところ					
		(死亡したところの種別1~5) 施設の名称	()				
(14)	死亡の原因	I 直接の死因 (ア)の原因 (イ)の原因 (ウ)の原因 (エ)の原因	発病(発症)又は 受傷から死亡まで の期間 ◆年、月、日等の 単位で書いてくだ さい。 ただし、1日未 満の場合は、時、 分等の単位で書 いてください。 (例:1年3ヶ月、5 時間20分)				
				II 直接には死因に関係しな いがI欄の傷病経過に影 響を及ぼした傷病名等			
				手術	1. 無 2. 有	手術年月日	平成・令和 年 月 日
				A i	1. 無 2. 有	実施年月日	平成・令和 年 月 日
				解剖	1. 無 2. 有	実施年月日	平成・令和 年 月 日
		産科的原因	ア. 妊娠中あるいは、過去一年以内の妊娠 (1. 無 2. 有) または (1. 無 2. 有 3. 不詳) イ. (ア)で有を選択した場合、産科的原因があった (1. 無 2. 有) ウ. (ア)で有を選択した場合における妊娠の転帰 (1. 生産 2. 流死産 3. 異所性妊娠 4. 人工妊娠中絶 5. 妊娠・分娩中死亡 6. その他) エ. (ウ)で「1, 2, 3, 4, 5」を選択した場合の転帰日(平成・令和 年 月 日)と、死亡時妊娠週数(妊娠 週)				
	(15)	死因の種類	1. 病死及び自然死				
			外因死 { 2. 交通事故 3. 転倒・転落 4. 溺水 5. 煙、火災及び火焰による傷害 } 6. 窒息 7. 中毒 8. その他 } その他及び不詳の外因死 9. 自殺 10. 他殺 11. その他及び不詳の外因				
	(16)	外因死の追加事項	傷害が発生した時	令和 年 月 日	午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県
			傷害が発生したところの種別	1. 住居 2. 工場及び建築現場 3. 道路 4. その他()			市 郡
捜査機関による検視等			1 無 2 有				
手段及び状況							
(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別 1 単胎 2 多胎(子中第 子)		妊娠週数 満 週		
		妊娠・分娩時における母体の病態または異常	母の生年月日 昭和 平成 令和 年 月 日		前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)		
(18)	その他特に付言すべきことがら						
(19)	上記のとおり診断(検案)する		診断(検案)年月日 令和 年 月 日				
	本診断書(検案書)発行年月日		令和 年 月 日				
	(病院、診療所、介護医療院若しくは介護老人保健施設等の名称及び所在地又は医師の住所)						
	(氏名)	医師	(印)				

生年月日が不詳の場合は、推定年齢をカッコを付して書いてください。

夜の12時は「午前0時」、昼の12時は「午後0時」と書いてください。

「5老人ホーム」は、介護老人ホーム、特別介護老人ホーム、軽費老人ホーム及び有料老人ホームをいいます。

「6自宅」はサービス付き高齢者住宅を含みます。

死亡したところの種別で「3」を選択した場合は、施設の名称に続けて、介護医療院、介護老人保健施設の別をカッコ内に書いてください。

傷病名等は、日本語で書いてください。

I欄では、各傷病について発病の型(例:急性)、原因(例:病原体名)、部位(例:胃噴門部がん)、性病(病理組織型)等もできるだけ書いてください。

妊娠中の死亡の場合は「妊娠満何週」、また、分娩中の死亡の場合は「妊娠満何週の分娩中」と書いてください。

産後42日未満の死亡の場合は「妊娠満何週産後満何日目」と書いてください。

I欄及びII欄に関係した手術について、術式又はその診断名と関連のある所見等を書いてください。紹介状や伝聞等による情報についてもカッコを付して書いてください。

Ai、解剖についても同様に記入願います。

産科的原因とは、妊娠・分娩・産後の産科合併症の関与、義務の怠慢または不適切な処置から生じた場合、あるいは妊娠前から存在した疾患または妊娠中に発症した疾患が妊婦の生理作用によって悪化した場合を言います。

「2交通事故」は、事故発生からの期間にかかわらず、その事故による死亡が該当します。

「5煙、火災及び火焰による傷害」は、火災による一酸化炭素中毒、窒息等も含まれます。

「1住居」とは、住宅、庭等をいい、老人ホーム等の居住施設は含まれません。

傷害がどういふ状況で起こったかを具体的に書いてください。

妊娠週数は、最終月経、基礎体温、超音波計測等により確定し、できるだけ正確に書いてください。母子健康手帳等を参考に書いてください。

◎ こちら側は医師が記入する欄です。

死亡診断書 (死体検案書)

この死亡診断書(死体検案書)は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。かい書で、できるだけ詳しく書いてください。

検討様式その2

記入の注意

氏名	1 男 2 女	生年月日	明治 昭和 大正 平成 令和 生まれてから30日以内に 死亡したときは生まれた 時刻も書いてください。	年 月 日	午前・午後 時 分	
	死亡したとき		平成・令和 年 月 日	午前・午後 時 分		
(12) (13)	死亡したところ及びその種別	死亡したところの種別	1 病院 2 診療所 3 介護医療院・介護老人保健施設 4 助産所 5 老人ホーム 6 自宅 7 その他			
		死亡したところ				
		(死亡したところの種別1~5) 施設の名称	()			
(14)	死亡の原因	I 直接の死因 (ア)の原因 (イ)の原因 (ウ)の原因 (エ)の原因	発病(発症)又は 受傷から死亡まで の期間 ◆年、月、日等の 単位で書いてくだ さい。 ただし、1日未 満の場合は、時、 分等の単位で書 いてください。 (例:1年3ヶ月、5 時間20分)			
				II 直接には死因に関係しな いがI欄の傷病経過に影 響を及ぼした傷病名等		
					手術	
					1. 無 2. 有 手術年月日 平成・令和 年 月 日	
					部位及び 主要 所見	
	A i	1. 無	実施年月日	平成・令和 年 月 日		
		2. 有	所見			
	解剖	1. 無				
		3. 有				
	産科的原因	◆死亡者が女性の場合、 右の「産科的原因」を必ず 記載してください 自殺の場合にも必ず記載 してください				
ア. 妊娠中あるいは、過去一年以内の妊娠 (1. 無 2. 有) または (1. 無 2. 有 3. 不詳) イ. (ア)で有を選択した場合、産科的原因があった (1. 無 2. 有) ウ. (ア)で有を選択した場合における妊娠の転帰 (1. 生産 2. 流死産 3. 異所性妊娠 4. 人工妊娠中絶 5. 妊娠・分娩中死亡 6. その他) エ. (ウ)で「1、2、3、4、5」を選択した場合の転帰日(平成・令和 年 月 日)と、死亡時妊娠週数(妊娠 週)						
(15)	死因の種類	1. 病死及び自然死				
		外因死 { 不慮の外因死 { 2. 交通事故 3. 転倒・転落 4. 溺水 5. 煙、火災及び火焰による傷害 } 6. 窒息 7. 中毒 8. その他 } その他及び不詳の外因死 9. 自殺 10. 他殺 11. その他及び不詳の外因				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生した時	令和 年 月 日	午前・午後 時 分	都道府県	
		傷害が発生したところの種別	1. 住居 2. 工場及び建築現場 3. 道路 4. その他()			市 郡 区 町 村
	◆伝聞又は推定情報の場合でも書いてください					
	捜査機関による検視等 1 無 2 有					
(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別 1 単胎 2 多胎(子中第 子)	妊娠週数 満 週		
		妊娠・分娩時における母体の病態または異常	母の生年月日 昭和 平成 令和 年 月 日	前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)		
(18)	その他特に付言すべきことがら					
(19)	上記のとおり診断(検案)する		診断(検案)年月日 令和 年 月 日			
	本診断書(検案書)発行年月日		令和 年 月 日			
〔病院、診療所、介護医療院若しくは介護老人保健施設等の名称及び所在地又は医師の住所〕						
(氏名)		医師				

生年月日が不詳の場合は、推定年齢をカッコを付して書いてください。

夜の12時は「午前0時」、昼の12時は「午後0時」と書いてください。

「5老人ホーム」は、介護老人ホーム、特別介護老人ホーム、軽費老人ホーム及び有料老人ホームをいいます。

「6自宅」はサービス付き高齢者住宅を含みます。

死亡したところの種別で「3」を選択した場合は、施設の名称に続けて、介護医療院、介護老人保健施設の別をカッコ内に書いてください。

傷病名等は、日本語で書いてください。

I欄では、各傷病について発病の型(例:急性)、原因(例:病原体名)、部位(例:胃噴門部がん)、性病(病理組織型)等もできるだけ書いてください。

妊娠中の死亡の場合は「妊娠満何週」、また、分娩中の死亡の場合は「妊娠満何週の分娩中」と書いてください。

産後42日未満の死亡の場合は「妊娠満何週産後満何日目」と書いてください。

I欄及びII欄に関係した手術について、術式又はその診断名と関連のある所見等を書いてください。紹介状や伝聞等による情報についてもカッコを付して書いてください。

Ai、解剖についても同様に記入願います。

産科的原因とは、妊娠・分娩・産後の産科合併症の関与、義務の怠慢または不適切な処置から生じた場合、あるいは妊娠前から存在した疾患または妊娠中に発症した疾患が妊婦の生理作用によって悪化した場合を言います。

「2交通事故」は、事故発生からの期間にかかわらず、その事故による死亡が該当します。

「5煙、火災及び火焰による傷害」は、火災による一酸化炭素中毒、窒息等も含まれます。

「1住居」とは、住宅、庭等をいい、老人ホーム等の居住施設は含まれません。

傷害がどういふ状況で起こったかを具体的に書いてください。

妊娠週数は、最終月経、基礎体温、超音波計測等により確定し、できるだけ正確に書いてください。

母子健康手帳等を参考に書いてください。



◎ こ ち ら 側 は 医 師 が 記 入 す る 欄 で す 。

死亡診断書 (死体検案書)

この死亡診断書(死体検案書)は、我が国の死因統計作成の資料としても用いられます。かい書で、できるだけ詳しく書いてください。

本研究班提言の
様式案

記入の注意

氏名	1 男 2 女	生年月日	明治 昭和 大正 平成 令和	年 月 日
			生まれてから30日以内に 死亡したときは生まれた 時刻も書いてください。	午前・午後 時 分
死亡したとき	令和 年 月 日 午前・午後 時 分			
(12) (13) 死亡したところ 及びその種別	死亡したところの種別	1 病院 2 診療所 3 介護医療院・介護老人保健施設 4 助産所 5 老人ホーム 6 自宅 7 その他		
	死亡したところ			
	(死亡したところの種別1~5)施設 の名称	()		
死亡の原因 ◆ I 欄、II 欄ともに疾患の終 末期の状態としての心不全、 呼吸不全等は書かなくて ください ◆ I 欄では、最も死亡に影響 を与えた傷病名を医学的 因果関係の順番で書いて ください ◆ I 欄の傷病名の記載は各 欄一つにしてください ただし、欄が不足する場 合は(エ)欄に残りを医学的 因果関係の順番で書いて ください ◆ 死亡者が女性の場合、右 の「産科的原因」を必ず記載 してください 自殺の場合にも必ず記載 してください	I	(ア) 直接の死因	発病(発症)又は受傷 から死亡までの期間	◆年、月、日等の 単位で書いてくださ い。 ただし、1日未満の 場合は、時、分等の 単位で書いてくださ い。 (例:1年3ヶ月、5時 間20分)
		(イ) の原因		
		(ウ) の原因		
		(エ) の原因		
	II	直接には死因に関係しないが I 欄の傷病経過に影響を及ぼ した傷病名等		
手術	1. 無 2. 有	手術年月日	令和・平成・昭和	年 月 日
		部位及び 主要所見		
	A	1. 無 2. 有	実施年月日	令和 年 月 日
解剖	1. 無 2. 有	実施年月日	令和	年 月 日
		部位及び 主要所見		
	産科 的原因	ア. 妊娠中あるいは、過去一年以内の妊娠 (1. 無 2. 有) または (1. 無 2. 有 3. 不詳) イ. (ア)で有を選択した場合、産科的原因があった (1. 無 2. 有) ウ. (ア)で有を選択した場合における妊娠の転帰 (1. 生産 2. 流死産 3. 異所性妊娠 4. 人工妊娠中絶 5. 妊娠・分娩中死亡 6. その他) エ. (ウ)で「1、2、3、4、5」を選択した場合の転帰日 (令和 年 月 日) と、死亡時妊娠週数 (妊娠 週)		
CDR 所見				
(15) 死因の種類	1. 病死及び自然死			
	外因死	不慮の外因死 { 2. 交通事故 3. 転倒・転落 4. 溺水 5. 煙、火災及び火焰による傷害 6. 窒息 7. 中毒 8. その他 } その他及び不詳の外因死 9. 自殺 10. 他殺 11. その他及び不詳の外因		
(16) 外因死の 追加事項 ◆ 伝聞又は推定 情報の場合でも 書いてください	傷害が発生 した時	令和・平成・昭和	年 月 日	午前・午後 時 分
	傷害が発生した ところの種別	1. 住居 2. 工場及び建築現場 3. 道路 4. その他 ()		
	捜査機関による検視等	1 無 2 有		
	手段及 び状況			
(17) 生後1年未満で病 死した場合の追加 事項	出生時体 重	単胎・多胎の別 1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	妊娠週数 満 週	
	妊娠・分娩時における母体の病態または異常	母の生年月日 昭和 平成 令和	前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)	
(18) その他特に付言すべ きことがら				
(19) 上記のとおり診断 (検案) する	診断 (検案) 年月日		令和	年 月 日
	本診断書 (検案書) 発行年月日		令和	年 月 日
	〔 病院、診療所、介護医療院若しくは介護 老人保健施設等の名称及び所在地又は 医師の住所 〕			(氏名) 医師 (印)

生年月日が不詳の場合は、推定年齢をカ
ッコを付けて書いてください。

夜の12時は「午前0時」、昼の12時は「午後0
時」と書いてください。

「5老人ホーム」は、養護老人ホーム、特別
養護老人ホーム、軽費老人ホーム及び有
料老人ホームをいいます。「6自宅」はサー
ビス付き高齢者住宅を含みます。

死亡したところの種別で「3」を選択した場
合は、施設の名称に続けて、介護医療院、介
護老人保健施設の別をカッコ内に書いてく
ださい。

傷病名等は、日本語で書いてください。
I 欄では、各傷病について
発病の型(例:急性)、
原因(例:病原体名)、
部位(例:胃噴門部がん)、
性状(病理組織型)等もできるだけ書いて
ください。
妊娠中の死亡の場合は「妊娠満何週」、ま
た、分娩中の死亡の場合は「妊娠満何週
の分娩中」と書いてください。
産後42日未満の死亡の場合は「妊娠満何
週産後満何日目」と書いてください。

I 欄及びII 欄に関係した手術について、
術式又はその診断名と関連のある所見等
を書いてください。紹介状や伝聞等による情
報についてもカッコを付けて書いてくださ
い。
Ai、解剖についても同様に記入願います。

産科的原因とは、妊娠・分娩・産後の産科
合併症の関与、義務の怠慢または不適切
な処置から生じた場合、あるいは妊娠前か
ら存在した疾患または妊娠中に発症した疾
患が妊婦の生理作用によって悪化した場合
を言います。

子どもの死亡に関する特記事項等を記入し
ます。

「2交通事故」は、事故発生からの期間にか
かわらず、その事故による死亡が該当しま
す。
「5煙、火災及び火焰による傷害」は、火災
による一酸化炭素中毒、窒息等も含まれま
す。

「1住居」とは、住宅、庭等をいい、老人ホ
ーム等の居住施設は含まれません。

傷害がどうい状況で起こったかを具体的に
書いてください。

妊娠週数は、最終月経、基礎体温、超音波
計測等により確定し、できるだけ正確に書
いてください。
母子健康手帳等を参考に書いてください。

※ この様式案は、研究班における検討の途上にあるものを参考として供覧する
ものであり、次年度の研究において、さらなる検討を加える予定である。